平成24年度スジアオノリ養殖概況

中西達也・棚田教生

スジアオノリは，徳島県が全国シェアの7～8割を占め，本県を代表するブランド水産物の一つである。ここでは，その平成24年度の生産概況を記す。

平成24，23年度の月別徳島県漁連共販数量の推移を図1に，年度別共販数量と平均単価の推移を図2に示した。

主要漁場の吉野川では，漁期始めから水温の降下が早く，スジアオノリの生長に適した水温帯の期間が非常に短かった。さらに，11月上旬から養殖網へのシオミドロの付着が問題となった。11月22日に鮎喰川と吉野川合流点付近の天然採苗場の様子を見たところ，シオミドロが海苔網に大量かつ広範囲に付着していた。漁業者からの聞き取りによると，シオミドロは干出しても落ちず，また，流水を当てるなど物理的な洗浄でも落ちにくいとのことであった。加えて今年は，天然採苗のスジアオノリの芽付きも薄かったとのことから生産状況は好転せず，1月には終漁した。

以上のことから，12月の生産量は対前年比71.0%，1月は同22.8%と，生産量の大幅な減少となった（図1）。平成24年度の共販実績は数量52トン，金額5.6億円，平均単価10,723円だった（図2）。

水産研究所は，漁業者が実施する人工採苗を支援するため，人工採苗用の母藻（吉野川産広域温度対応株Y1124)種網を生産し，10月9日，大津，川内，応神町，徳島市第一，渭東及び徳島市辰巳の各漁協へ配布した。

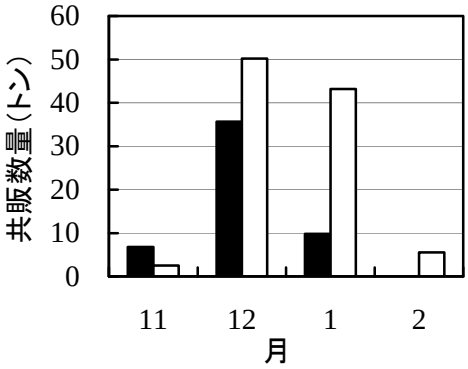

図1.　月別共販数量の推移。■，平成24年度；□，平成23年度

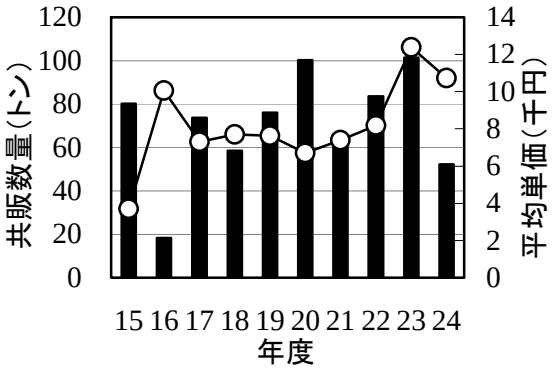

図2.　年度別共販数量と平均単価の推移。■，共販数量；○，共販平均単価